



ケイウギンコウケイウインコ

博物館に
行ってみよう!

もっと知りたい! 千葉のおもしろ 博物館

第16回

印西市立印旛医科器械歴史資料館(印西市)

野戦用 蒸気消毒車

インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

貴重な歴史上の医療機器を展示 する世界でも珍しい資料館

印西市立印旛医科器械歴史資料館は、世界的にも珍しい医科器械資料を専門に展示する資料館です。展示品には江戸時代末期から昭和にかけて、それぞれの時代に作られ使用されていた医療機器が並べられています。中でも世界で初めて全身麻酔による乳がん摘出手術を行った華岡青洲^{はなおか せいしゅう}の外科器具(レプリカ)や大正時代に作られた国産初の顕微鏡、昭和初期の陸軍野戦用の移動式消毒器や手術台、戦後に開発された国産の麻酔器、人工腎臓、人工心臓装置など、貴重な資料が数多く展示されています。

この資料館が始まるきっかけは、日本医科器械学会の第50回大会の記念事業として開催された「医科器械の歴史展」でした。大会長を務めた故・青木利三郎氏が歴史展のために自ら全国を巡り、歴史的価値のある医科器械を収集しました。そして展示会の開催後、収集された資料を一般公開するために、印西市立印旛医科器械歴史資料館のもととなる青木記念医科器械資料館を開設しました。その後、当時の印旛村がこの資料館を誘致し、2007年4月に現在地に印旛村医科器械歴史資料館として開館、そして現在の印西市立印旛医科器械歴史資料館となりました。

来館者は、医師、看護師、臨床工学技士など医療従事者だけでなく、医療メーカー、医療機器代理店の方々などさまざまです。また、医療関係の学生さんが研修として見学されるケースもあります。もちろん、医療とは全く関係のない近隣市民の方もいらっしゃいます。

特に、来館された医療従事者の方からは「懐かしい。新人の頃、この装置を使用していました」「昔はこの装置、こんなに大きかったんだね」と、時代の変化を感じながら見学されています。

医療のIT化や高度化が進む中で、ここにはかつての医療現場を支えた歴史的に貴重な道具が保存されています。この歴史の中の医療の英知が集積された場所に、皆さんもぜひ足をお運びください。



一般財団法人 日本医科器械資料保存協会
監事 資料館業務主任者 山沢 宣行さん

印西市立 印旛医科器械歴史資料館とは？

2007年に印旛村医科器械歴史資料館として開館。故・青木利三郎氏が全国から収集した医療機器を中心とした膨大なコレクションを展示する、世界でも有数の規模を誇る医療機器を専門に展示する資料館です。

江戸時代以降の日本の医療の発展を支え、歴史を物語る貴重な医療機器がジャンルごとに展示されています。



顕微鏡写真装置

顕微鏡が並ぶ第4展示室の一角にある顕微鏡写真装置。全長3,130mmもある大きな装置で、ジャバラの先に拡大レンズが並びその先に撮影したいものを配置します。この製品は大正時代中頃にドイツから輸入され、慶應義塾大学病理学教室の武市曇氏が病理標本の製作に使用していた顕微鏡写真装置です。

拡大レンズ周辺のアップ。
この部分に撮影したい
ものを配置します。



インタビュー

“中の人”に
聞いてみました

館内にはジャンル別に分類された10部屋の展示室

館内には約1,000点の資料が展示されています。2階建てになっていて、1階に3部屋、2階に7部屋、合計10部屋の展示室に以下のように分類された医科器械が展示されています。

1. 心臓関連
2. 手術台・消毒器・無影灯等
3. 患者監視装置・臓器保存装置・レントゲン他
4. 顕微鏡・眼科器械・ミクロトーム・天秤他
5. 保育器
6. 電気メス
7. 心電計・脳波計等
8. 麻酔器・肺機能検査器・酸素テント他
9. 透析装置・内視鏡・内科・外科各種手術器具・麻酔関連他
10. 低周波治療器他

展示品には引退した医師の皆さんからの寄贈品も多く、クリニック等で実際に使われていた医療機器も含まれており、大正や昭和の時代の医療現場が登場するドラマや映画に貸し出された機器もあります。「通ってた病院で見たことがある!」といった懐かしい機器もきっと見つかることでしょう。



一般財団法人 日本医科器械資料保存協会
資料館業務主任者 馬場 純一さん



時空を超えた体験ゾーン

館内の収蔵品は外科をはじめ、歯科、眼科、耳鼻咽喉科、形成外科、皮膚科、産婦人科、放射線科など診療科領域が多岐にわたっています。治療機器、診断機器の他にも消毒器や無影灯など大型の施設機器も展示されています。

また、現在ではほとんど見ることのできない希少価値の高い医療機器も見ることができます。



▲人工心臓ポンプ。心臓外科手術時などに患者の心臓の代わりに血液を送り出すポンプの役割を果たします。



▲携帯用レントゲン装置。分解式になっていて、大きめのカバンにすっぽりと収まる形状になっています。バッテリーと思われる機器も横に置かれています。



▲麻酔器。麻酔は薬物を使用して痛みを感じさせない状態にします。昭和初期に輸入されたエーテル吸入麻酔器(左)、国産初の閉鎖循環式麻酔器(レプリカ)(右)



▲実際に治療や手術に使用されていた医療器具は、その一つひとつの形状にはそれぞれ用途があり、医療現場のリアルさが伝わってきます。

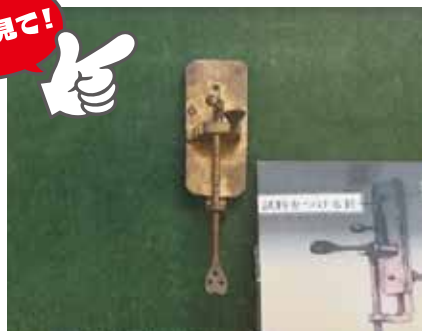
●問い合わせ／**印西市立印旛医科器械歴史資料館**
印西市舞姫1-1-1 TEL.0476-98-1390 <https://ikakikai-hozon.org/>



すごい!この展示物を見逃すな!

フック顕微鏡(レプリカ)

これ見て!



(中面でもご紹介しています)なども展示されています。

その中でも異彩を放つのがこの「フック顕微鏡」と名付けられた一品。その形状は「ドアのカギ?」と思ってしまうような不思議なもの。私たちがこれまで目にしてきた顕微鏡とは全く異なる形をしていて、長さ70mmほどの大きさです。正体はオランダのアントニー・レーフェンフックが作製した、1670~1673年頃の「単式顕微鏡」(レプリカ)です。

資料館の階段を2階へ上っていくと正面に第4展示室があります。中に入ると、そこには数十台もの顕微鏡が並べられています。

一口に顕微鏡と言ってもその形状は実にさまざま。大人の方なら小中学生のころ理科の実験室で使用したような懐かしい顕微鏡や、「これが顕微鏡?」と思えるような大型の写真装置と組み合わされた顕微鏡

17世紀当時、小さなレンズを完璧に研磨する技術はとても難しく、少数の研究者のみが習得できました。その内の1人レーフェンフックは、その研磨技術を秘密にしたため、技術は伝承されませんでした。そのため現存するものはとても少なく、このレプリカは貴重な歴史的資料です。



イベントに行ってみよう!

このようなイベントもやっています

印西市立印旛医科器械歴史資料館では、常設展示のほか、定期的にイベントも開催しています。



【出張展示】

当資料館に展示、保存されている医療機器は、医療の歴史を知る上でも非常に貴重な資料です。そのため、医療機器学会のショーなどでも出張展示され、多くの医療関係の方々にも紹介されています。



【セミナーの開催】

定期的に市民の皆さんが参加できるセミナーも開催しています。医療と、医療を支える機器の発展の歴史などについて学ぶことができます。

「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」今月の誌上クイズ

※答えは、京葉銀行のホームページにある、「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」の第16回をご覧ください。



今回誌面でご紹介した、第4展示室にある顕微鏡写真装置は、どこの国で作られたものでしょうか?
次の3つの中から正解を1つ選んでください。

- ① 日本
- ② オランダ
- ③ ドイツ

取材協力・撮影協力・写真提供/印西市立印旛医科器械歴史資料館、一般財団法人 日本医科器械資料保存協会

プラスαで、未来をとらえ。

京葉銀行

ホームページでもご覧いただけます。

京葉銀行 情報誌 検索

LINE、Xからも「もっと知りたい! 千葉のおもしろ博物館」を配信しています。

LINE 公式アカウント
@keiyobk_official



X 公式アカウント
@keiyobkofficial



正解は→③ ドイツ

2026.4
(次回発行予定/
2026年5月20日)